

《目的》～何がしたいのか～

我々は精神障害者やその家族・親族が偏見や差別を受けることなく、精神障害者が自立(自律)できる地域社会を築くことを目的とする。

《方法》～そのためにはどうしたらいいのか～

関係者が情報を共有し、精神障害者が有効な情報(病院・薬・社会福祉制度・障害年金・社会資源・等)を確実に得られる地域社会であることが望ましい。我々は、精神障害者が権利で認められた情報を確実に得られるよう、互いに支え合い、助け合う場を確保する。

精神障害者は権利を主張するだけでなく、障害を乗り越えて生きようと努力する義務を果たすことが大切である。我々は、精神障害者一人一人が、自分らしく、生きがいを持って生きられるよう、切磋琢磨する時間を確保する。

特に留意すべきは、今、この瞬間も、精神障害を有するのがわからず、苦しんでいる人が必ずいるということである。我々は、このような人々の診断が遅れることなく、早期に治療を受けられ、回復されるよう、地域社会に精神保健福祉の必要性を訴える活動を行う。

《反省》～今までとこれから～

今まで、PDCAサイクル『Plan(計画)→Do(実行)→Check(評価)→Act(改善)』に従い、活動してこなかった。過去の活動は、常に時世の後手にまわっており、このままでは、当初の目的に達せない。来年度以降、年度を1/4に分けて、PDCAサイクルに則った活動を行いたい。

1Q 第1四半期(4・5・6月 計画期)

具体例：我々の求める精神保健福祉はどこにあり、どう利用できるのか。

2Q 第2四半期(7・8・9月 実行期)

具体例：市に要望していく。

3Q 第3四半期(10・11・12月 評価期)

具体例：要望に対する市の回答を評価する。

4Q 第4四半期(1・2・3月 改善期)

具体例：活動をどう改めるか検討する。

《問題点》～なぜ、このような思考を巡らせることとなったか～

今まではわかちあいを中心とした活動を行ってきた。しかしながら、個人の問題に固執し過ぎて、時間を大幅に使ってしまい、本来の目的に到達できなかった。

我々がわかちあうことのみを目的とするなら、会規約を改めるべきであるが、わかちあいしかない精神障害者の当事者会の多くは自然消滅しているのが現実である。

ここに2つ目の目的が現れる。→持続可能な当事者活動を行うことを目的とする。

※何があろうと活動は続けられなければならない。活動を一時やめたことによるダメージは大変大きかったからである。